

トーキング ロード
嘶家人生 山あり、谷あり

〔第15回〕

動物園

+ 文 林家木りん

Text by Kirin Hayashiya

皆様もよく聞かれる質問っていろいろがあると思います。

僕の場合は「どうして落語家になつたの？」という質問です。

普通の落語家なら落語が好きで、あの落語がしたいからといった理由が多いと思います。

ちなみに僕が落語家になつた理由はただ一つ。師匠である木久扇の人間としての存在です。もちろん高座もおもしろいですが、師匠の生き方などは僕の人生の考え方を180度変えました。

師匠は落語家でありながら商売人。ライバルは？と聞くと「先月の売り上げ」と答えるほど！

僕は師匠に最初に教わつたことは落語ではなく、「経済」ということ。

「落語家は面白いことを話すのが仕事、ある程度の余裕がなければ面白いこともなかなか思いつかない。だからまず経済なんだよ」

と師匠は言われました。まさにこの通りだなと。

昔から「腹が減つては戦ができぬ」

という言葉があるように、ある程度の余裕がなくてはアイデアも思い付きづらいのです。ですから師匠は必ず何かしてくれた方にはポチ袋にお小遣いを入れて渡してくださるのです。

こういうことがボンとできる人間になりたいと心から思います。

そんな師匠の面白エピソードをご紹介します！

経済を重んじる師匠は本のサイン会を開いていました。そうしたら隣でアントニオ猪木さんのサイン会も開かれていました。

猪木さんのサインには「入魂」と書かれてあり、それを見た師匠は自分も何か書かなきゃいけないと思つたのかサインにマネして「入金」と（笑）。

師匠に弟子入りして良かったなと思います！

今回ご紹介する落語は「動物園」という嘶。

ある男が仕事をさがして、友達に相談すると動物園を紹介されました。そこは動物園でも珍しい動物ばかりいる珍獣動物園。

園長にどんな仕事か聞くと、死んだブラックライオンの毛皮を着てブラックライオンの代わりにオリに入つてほしいとのこと。

男はこの仕事を引き受けます。さあこの後の男はどうなるか?! 気になる方は落語をお聴きください！



profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。
2009年林家木久扇に入門
2013年二ツ目昇進。
身長192cmと、落語協会一の高身長!
趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。
空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。
初の著書『師匠!』発売中